

非住宅CADの機能向上

マイスター研修制度も開始 ネットイーグル

ネットイーグル（福

岡市、祖父江久好社長）は、非住宅プレカットCAD「XF15」の機能向上に力を入れている。最近では、在来工法の複雑な仕口、継ぎ手の加工に対応したほか、インターフェイスの開発によってBIM連動を実現。今月は自社開発の構造計算システムを発売した。在来仕口への対応では、接合部の加工実寸法を機械側ではなく、CAD側で保持することで、異なる機械メーカーの加工機でも同一の形状、寸法で加工できるようにした。非住

宅木造をプレカットする15」は、他社のエンジン（レビット）で読める場合、建物の規模にオンを搭載していた従来によっては複数の工場でのスピードXでは対応加工を分散するケースがある。従来は加工形状を統一するために同じメーカーの加工機を選ぶ必要があったが、その必要がなくなっただ。CAD側の設定どおり加工できるため、住宅向けのXstarでは対応できなかった複雑な仕口、継ぎ手の加工も可能になった。BIM連動ではXF15で作成した構造データをオートデスクのBIMソフト「Revit」で読み込めるほか、基本的なレベル（高さ）以上のCADオペレーターを対象に、同社の設計チームが東京CADセンターで2泊3日のカリキュラムで集中的に指導する。定員は各回2〜6人で、3カ

今月発売した構造計算システム「NSCIMソフト」Revit F15で複雑な物件が入る。